

監督・競技者注意事項

1 本大会は、2022年度日本陸上競技連盟競技規則及び本大会申し合わせ事項によって実施する。また、競技者が児童である年齢を考慮し、教育的配慮のもとに競技を実施する。

2 招集について

- (1) 招集所は、スタート付近に設ける。招集所での密集を作らないようにすること。
- (2) 競技者は、招集開始時刻から招集完了時刻の間、招集場所に待機しアスリートビブスと名前、組などの確認を受けること。また、トラック競技出場者は腰ナンバーを受け取り、右腰やや後方につけること。レース後は、必ず自分で外して持ち帰ること。
- (3) 競技者は、コールを済ませた後、競技者係の指示に従うこと。
- (4) 招集時間は、下記のとおりとする。

競技種目	招集開始時刻	招集完了時刻
トラック競技	30分前	15分前
フィールド競技	50分前	40分前

- (5) 招集完了時刻に遅れた競技者は、棄権とみなす。
- (6) 棄権する場合は、予め棄権届を招集所に提出すること。

3 アスリートビブスについて

- (1) アスリートビブスは、各クラブに割り当てられたアスリートビブスを使用すること。
- (2) アスリートビブスは、ユニフォームの胸と背中にはっきり見えるように付けること。

4 トラック競技について

- (1) 本大会は、オールウェザー用のスパイク又はシューズを使用し、素足での競技は禁止する。
- (2) スタートの合図は、イングリッシュコールとする。スタートの形は、クラウチングスタートとする。スターティングブロックは使用しなくても良い。同じ競技者が2回の不正スタートをした時はその競技者を失格とし、オープン参加として走る。
(1・2年生は、クラウチングスタートでスターティングブロックなしで行う。)
- (3) 80mハードルは、高さ・・・70cm 台数・・・9台
距離・・・スタート→1台目 [13m]、ハードル間 [7m]、9台目→フィニッシュ [11m]
失格・・・手で倒す・ハードルから脚(あし)が出た場合。
- (4) 800mでは、第一曲走路の終わりにマークされたブレイクラインの、スタート側により近い端までレーンを走る。競技者はこのブレイクラインから自分のレーンを離れることが許される。
- (5) トラック競技は、タイムレースとする。

5 フィールド競技について

- (1) 3回の試技とする。

6 リレー競技について

- (1) リレーのオーダー用紙は、招集開始時刻の60分前までに招集所に提出すること。なお、招集規定どおりに行うこと。
- (2) リレーに参加するチームは、原則として同一のユニフォームとする。ただし、ユニフォームがそろわない場合は、ハチマキなどで統一していれば認める。

7 練習について

- (1) 混雑回避のため、ウォーミングアップへ付き添い者の同行を極力なくすこと。

8 表彰について

- (1) 各種目とも、1位から3位の入賞者に対して表彰を行う。
(盗撮防止の観点から、ランニング・ランパンでの表彰式は認めないので、Tシャツなどを着用すること。)
- (2) 成績発表後、入賞者は待機場所に移動して待機すること。

9 その他

- (1) 日本陸連競技規則内、2020年度のシューズ規則に関する改訂ルール（第143条・競技用靴）の適用外とする。
- (2) 該当学年での参加を厳守すること。違反が判明したときは、その競技者を失格とする。
- (3) 競技の結果または競技実施に関する抗議は、その種目の結果の正式発表後30分以内に、審判長に対して口頭で行うことができる。(クラブ代表者が行うこと。)
- (4) 抗議に対して審判長は速やかに裁定する。裁定を不服として上訴する場合は、上訴申請書に必要事項を記入して、預託金10,000円を添えて大会本部に申し出ること。
- (5) 競技場内に入場できるのは、競技者・指導者・競技役員・補助員とする。
- (6) 記録は、携帯の記録速報で確認すること。
- (7) 走幅跳に出場する選手のクラブ指導者は、助言エリアで競技中の選手への助言ができる。
- (8) 応急処置を必要とする事故が生じた時は、本大会本部に連絡し処置を受けること。
なお、大会本部としても一括傷害保険に加入しているので、適用を受ける場合は、その旨を大会本部に申し出ること。
- (9) 入場規制を行うため、指導者は必ずADカードを着用すること。

10 応援・撮影について

- (1) 本競技場内外での連呼応援の禁止。(2名以上の集団で言葉を繰り返す応援。)
- (2) 撮影する場合は、盗撮等のトラブルにならないように撮影場所に気をつけてカメラを使用すること。(望遠付きカメラで撮影する場合は、受付で許可をもらうこと。)